

学校だより

横浜市情報ネットワーク（ＹＹネット）上に本校のホームページがあります。

URL : <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tookaichiba/>

横浜市立十日市場小学校

令和8年4月30日（木）

緑区十日市場町 1392 番地-1

電話 : 981-0420

FAX : 983-1694

雨とボール

副校長 渡邊 将道

先日、下校中の小雨の中、体を左右に揺らしながら、落ちてくる雨をよけようと歩いている子どもの姿を見かけました。大人の私からしたら、どれほど体を動かしても雨はよけられないと分かっているのですが、本気で工夫しながら歩くその姿に、何とも言えない温かな気持ちになりました。

気になって、雨は本当に人がよけられるものなのか少し調べてみると、人が見てから体を動かそうとしても間に合わないほど、雨は速く落ちてくるのだそうです。やはり、雨は簡単によけられるものではないのです。一方で休み時間の校庭に目を向けると、同じ子どもたちが、勢いよく飛んでくるドッジボールを上手によけたり、受け止めたりしながら元気に遊んでいます。雨はよけられないのに、もっと速いはずのボールには身をかかわすことができる。そのことを、不思議に感じました。

雨とボールの違いは、その数量・質量はもとより、速さだけではなく、これまでにどれだけ体験してきたか、つまり経験の積み重ねにあるのではないかと思います。ドッジボールでは、投げる人の構えや距離、これまでの経験から、「次はここに来そうだ」と少し先を予想しながら体を動かしています。反射的に見える動きも、実は経験に支えられた見通しの上に成り立っているのだと思います。大げさに言えば、子どもたちは“少し先の未来”を見ながら動いているのでしょう。

こうした姿を見ていると、教室での学習もよく似ていると感じます。例えば国語では、文章を読み進める途中で止まってしまう子どもがいます。しかしそれは、読む力が足りないからというより、そうした文章の読み方にまだ十分出会っていないからなのだと感じることがあります。学習を重ねる中で、「この言葉は大事そうだ」「ここは前とつながっている」と、少し先を考えながら読めるようになっていく姿を、これまで何度も見てきました。算数でも同じです。文章問題を前に戸惑っていた子どもが、学習を積み重ねる中で、「前にやった考え方と似ている」「まず図にしてみよう」と、自分なりに見通しを立てて取り組めるようになっていきます。そんな姿を見るたびに思うことは、子どもたちは急に賢くなったのではなく、これまで積み重ねてきた学びという経験を生かして、少し先を考えられるようになってきているのだということです。

勉強の大切さは、すぐに正解を出せるようになることだけではありません。分からなかったことや失敗も含めた一つ一つの経験が、次の学びや未来の自分を支えてくれるところにあるのだと思います。今日の学びは、すぐに形にならないかもしれませんが、しかし、その積み重ねは、必ずあとで自分の力になる。そんなことを、改めて考えさせられました。

教室に目をやれば、今日も子どもたちは、それぞれの課題に向き合いながら学習に取り組んでいます。雨をよけようと体を揺らしながら歩いていたあの子のように、子どもたちは今日も、自分なりの工夫で少しずつ前へ進んでいます。

